

ぶどう通信

第 21 号

平成 14 年 7 月 10 日

先日は真夏を思わせるような灼熱の熱さで僕たち夫婦は真っ黒になっ
てしまいました。これで夏が来たな
あなどると思っていたら翌日は台風上
陸。幸い、関東に上陸したのが深夜だ
ったために被害はあまりなかったよ
うですが、今年も台風の当たり年と
か。そして翌朝は台風一過、再び灼熱
の日となりました。身体がどうにか
なっちゃいそうですね。
さて、先月行われたサッカーの
ワールドカップ

お薬の話

僕たちは皆さんからよく耳にする
ことですが、実はよく知られていな
いことの中に薬の服用というものが

あります。医師が体調を見なが
ら薬を処方し、薬剤師が調剤す
る、というのはどこでも行われ
ていることです。しかし、ご本人
が薬を飲むときにどのような状
況なのかはまったく考えられていま
せん。

水を飲むと「むせ」があるので少量
の水分で服用する人、錠剤をうまく
飲み込めない人、粉の薬（散剤）だと
口の中に広がってしまい飲めなくな
ってしまう人。人それぞれに苦労さ
れているようです。しかし、その声は
医師や薬剤師には届いていません。
そこで、以前皆さんにもご協力的
いただきましたが、「服薬状況のアン
ケート」を元に日本プライマリ・ケア
学会というところでその状況につい
て発表してきました。少しでも皆さ
んの声が医療者の耳に響くといいで
すね。